

学校教育目標： 『自分に向き合い、自分を高め、他者とつながる生徒の育成』 ～Control・Challenge・Communication（3つのC）～

目指す生徒像： ☆自立に向かう生徒 ①ふるさとを愛し、ふるさとに貢献しようとする生徒…【創造】 ②支え合い、磨き合う生徒…【友愛】
 ③主体的に行動し、目標に向かって粘り強く取り組む生徒…【勉学】 ④心身を鍛え、よりよい生活習慣を目指そうとする生徒…【清楚】

重点項目	短期目標	達成のための方策	評価計画		自己評価		学校関係者評価		改善計画	
			評価指標（評価対象及び評価項目） *1	評価結果 *2	評価 *3	結果と課題の説明	評価 *4	コメント	改善策	
①【創造】	1)ふるさと教育・キャリア教育の推進	○総合学習(ツワトーク、農林業体験、職場体験等)の計画と実施 ○学びの協働事業と連携した、地域とのつながりの活用	生徒	○総合学習で、地域の方と関わりながら積極的に取り組んでいる。 ○総合学習などを通して、地域のことを考えている。 ○ツワトーク（1年生は学習版ツワトーク）を通して、自分の今の生活や将来のことを考えている。	3.5	A	・全体的に地域との関わりを意識した学習活動ができています。 ・ツワトークは、自己の将来に結びつけられるとよい。 ・生徒が各活動のねらいを十分に理解できるようにする工夫が必要。	A	・ツワトークでは、実施後の振り返りを十分にを行い、今の生活の見直しや将来への見通しが持てるような活動として今後も継続して取り組んでほしい。	・地域との関わりや3年間での学習の積み重ねを意識させるためのねらいの徹底。（年度初めや各活動の初めに十分に説明すること） ・生徒の社会性を育成するために、各学年で地域と関わる学習やツワトークを今後も継続すること。
			保護者	○学校は、地域との関わりを大切にして、ふるさと教育やキャリア教育に取り組んでいる。	3.2					
			職員	○地域との関わりを大切にした教育計画を立てている。 ○活動ありきではなく、ねらいを意識した指導を心がけている。	3.4					
			生徒	○互いに協力し、励まし合い、助け合いながら学校生活を送っている。 ○話し合い活動を通して、自分や仲間の課題を解決しようとしている。 ○友だちのいいところを発見できている。	3.4					
②【友愛】	1)支え合う仲間づくり	○学級や生徒会の活動の充実等による丁寧な集団づくり ○学級や全校の課題解決のための効果的な話し合い活動(話し合いのサイクル等)の導入	生徒	○互いに協力し、励まし合い、助け合いながら学校生活を送っている。 ○話し合い活動を通して、自分や仲間の課題を解決しようとしている。 ○友だちのいいところを発見できている。	3.4	B	・生徒は助け合ったり、仲間の良いところを見つけたりすることができている。 ・学校や学級の課題を自分事として捉え、解決に向けて話し合ったり、合意形成したりする活動としての深まりが弱い。より深く話し合えるような関係性づくりが課題。 ・「先生は話をよく聞いてくれる」と答えた生徒が約9割いるものの「自分からは相談しにくい」と感じる生徒が約3割いる。職員の傾聴的な姿勢は生徒に伝わっているが、生徒からの積極的な相談となっていない可能性がある。コロナ禍によるコミュニケーション能力の低下を念頭においた対策が必要。	B	・当事者である生徒評価は高いことから、自己評価を「A」に変更することを提言する。ただし、改善策は実施していくこと。 ・生徒間の会話が增えるような学年を縦割りにした活動やミーティングなどを継続し、議論の経験を積み重ねていけると理想的である。自分の気持ちを表現することがすぐにできるようになるわけではないため、繰り返し話し合いの経験を積んでいくことが必要。	・基本に戻って、話し合いのルール等の再確認。 ・縦割りの話し合い活動を意図的に設定。 ・生徒会活動やアドバイスマーケティング等の実施。 ・課題（テーマ）設定を明確にした話し合い活動になるよう注意すること。 ・教育相談の継続。 ・授業や部活動での積極的な言葉かけ。
			保護者	○学校は、集団で活動する場面を設け、支え合う仲間づくりに取り組んでいる。 ○子どもは、互いに協力し、励まし合い、助け合いながら学校生活を送っている。	2.9					
			職員	○学級や生徒会の活動の充実等による集団づくりを行っている。 ○話し合い活動を意図的に取り入れている。 ○集団活動を通して、生徒に所属感を持たせたり一人一人の自己肯定感を高めたりしている。	3.4					
			生徒	○先生は話をよく聞いて理解してくれる。 ○先生に相談しやすい。	3.2					
③【勉学】	1)自立に向けた姿勢づくり	○生徒の自立を促すための適切な言葉かけ（褒め、励まし、諭す） ○自己決定場面の設定	生徒	○自分を顧みて、努力すべきことが何か分かっている。 ○挑戦を意識し、自分の目標の達成に向けて粘り強く努力している。	3.4	B	・数値には表れていないが、職員の感覚から自己決定する力が弱いと感じることがある。 ・自分を高めようと努力する（勉強する、チャレンジする）姿が保護者にあまり伝わっていないのは、家庭学習に対する生徒と保護者の認識のギャップ（生徒は十分、保護者は不十分）が影響している可能性がある。 ・自学ノートの取組は定着してきており、内容が充実している生徒もいる。 ・授業内容の復習や学習内容の定着など、自分の学びにどれだけ生かしているかについては、生徒によって個人差が大きい。	B	・当事者である生徒評価が高いことから、自己評価の「A」への変更を提言。学校からの情報発信の工夫をぜひお願いしたい。 ・生徒は楽しそうに授業を受けている印象。 ・自学ノートが活用され、その成果が出るには時間がかかる。継続した指導が必要。 ・保護者は自分の子どもに対して厳しくなってしまうものだ。過程をふまえての評価であればよいが、テストの点を中心に見てしまいがちのため、低い評価になっている可能性もある。生徒の普段の学習の様子など、過程の部分で頑張っている様子を通して伝えることができれば、保護者の見方も変わるのではないか。 ・学習については家庭のサポートも必要。	・自立に向かう生徒の育成を目指した自学指導の継続。 ・自学の内容の充実に向けた計画的な指導。 例. 教師による模範や具体例の提示 アドバイスマーケティングによる他者参照 ・自学ノートの取組を学年単位から全校体制で行う仕組みづくり。 例. 縦割り班での活用 担当学年を越えて生徒の状況を把握すること 学習の進め方に特化した教育相談の実施 ・教師の授業改善。（含：電子端末の活用） ・学級通信等の内容の工夫改善。（テスト結果以外の頑張っている姿や生徒の成長、学校での学びの様子が伝わるように） ・確実に保護者に届き、保護者が閲覧しやすい電子媒体での配信の導入。
			保護者	○子どもの姿から、自分自身を高めようとする様子を感じる。	2.8					
			職員	○生徒の自立を促すような適切な支援や働きかけを意図的に行っている。	3.4					
			生徒	○先生は分かりやすい授業になるよう工夫している。	3.3					
③【勉学】	2)分かりやすい授業づくり	○授業の工夫・改善 ○授業研究	保護者	○学校の授業や学習指導は適切である。	2.7	B	・数値には表れていないが、職員の感覚から自己決定する力が弱いと感じることがある。 ・自分を高めようと努力する（勉強する、チャレンジする）姿が保護者にあまり伝わっていないのは、家庭学習に対する生徒と保護者の認識のギャップ（生徒は十分、保護者は不十分）が影響している可能性がある。 ・自学ノートの取組は定着してきており、内容が充実している生徒もいる。 ・授業内容の復習や学習内容の定着など、自分の学びにどれだけ生かしているかについては、生徒によって個人差が大きい。	B	・当事者である生徒評価が高いことから、自己評価の「A」への変更を提言。学校からの情報発信の工夫をぜひお願いしたい。 ・生徒は楽しそうに授業を受けている印象。 ・自学ノートが活用され、その成果が出るには時間がかかる。継続した指導が必要。 ・保護者は自分の子どもに対して厳しくなってしまうものだ。過程をふまえての評価であればよいが、テストの点を中心に見てしまいがちのため、低い評価になっている可能性もある。生徒の普段の学習の様子など、過程の部分で頑張っている様子を通して伝えることができれば、保護者の見方も変わるのではないか。 ・学習については家庭のサポートも必要。	・自立に向かう生徒の育成を目指した自学指導の継続。 ・自学の内容の充実に向けた計画的な指導。 例. 教師による模範や具体例の提示 アドバイスマーケティングによる他者参照 ・自学ノートの取組を学年単位から全校体制で行う仕組みづくり。 例. 縦割り班での活用 担当学年を越えて生徒の状況を把握すること 学習の進め方に特化した教育相談の実施 ・教師の授業改善。（含：電子端末の活用） ・学級通信等の内容の工夫改善。（テスト結果以外の頑張っている姿や生徒の成長、学校での学びの様子が伝わるように） ・確実に保護者に届き、保護者が閲覧しやすい電子媒体での配信の導入。
			職員	○授業研究等の実践を通して授業改善に努めている。 ○研修計画に沿った研修を進めている。	3.2					
			生徒	○宿題や自学に取り組み、自分の学習に役立っている。 ○先生は学習方法について、相談に乗ってくれたり助言してくれたりする。	3.2					
			保護者	○学校は宿題の出し方や学習評価を工夫し、学力の定着や家庭学習の習慣化に向けて取り組んでいる。 ○子どもは、自分なりに家庭学習に取り組んでいる。	2.7					
③【勉学】	3)学習習慣の定着	○生徒の意識化を図るための宿題や自主学習の指導 ○生徒の学習意欲につながる学習評価の工夫 ○学習方法等についての学習相談の実施	保護者	○自学ノート等の活用により、家庭学習の確立に向けた指導を行っている。 ○適切な学習評価を通して、学習への意欲づけを図っている。 ○一人一人の生徒の状況を把握し、学習方法について助言している。	3.2	B	・数値には表れていないが、職員の感覚から自己決定する力が弱いと感じることがある。 ・自分を高めようと努力する（勉強する、チャレンジする）姿が保護者にあまり伝わっていないのは、家庭学習に対する生徒と保護者の認識のギャップ（生徒は十分、保護者は不十分）が影響している可能性がある。 ・自学ノートの取組は定着してきており、内容が充実している生徒もいる。 ・授業内容の復習や学習内容の定着など、自分の学びにどれだけ生かしているかについては、生徒によって個人差が大きい。	B	・当事者である生徒評価が高いことから、自己評価の「A」への変更を提言。学校からの情報発信の工夫をぜひお願いしたい。 ・生徒は楽しそうに授業を受けている印象。 ・自学ノートが活用され、その成果が出るには時間がかかる。継続した指導が必要。 ・保護者は自分の子どもに対して厳しくなってしまうものだ。過程をふまえての評価であればよいが、テストの点を中心に見てしまいがちのため、低い評価になっている可能性もある。生徒の普段の学習の様子など、過程の部分で頑張っている様子を通して伝えることができれば、保護者の見方も変わるのではないか。 ・学習については家庭のサポートも必要。	・自立に向かう生徒の育成を目指した自学指導の継続。 ・自学の内容の充実に向けた計画的な指導。 例. 教師による模範や具体例の提示 アドバイスマーケティングによる他者参照 ・自学ノートの取組を学年単位から全校体制で行う仕組みづくり。 例. 縦割り班での活用 担当学年を越えて生徒の状況を把握すること 学習の進め方に特化した教育相談の実施 ・教師の授業改善。（含：電子端末の活用） ・学級通信等の内容の工夫改善。（テスト結果以外の頑張っている姿や生徒の成長、学校での学びの様子が伝わるように） ・確実に保護者に届き、保護者が閲覧しやすい電子媒体での配信の導入。
			職員	○朝読書の時間や学校図書館を利用して、本を読んでいる。 ○朝読書を通して、生徒に対する読書活動を促している。 ○読書の意義や学校図書館の活用方法等について指導している。	3.1					
			保護者	○子どもは、生活リズムを整え、健康に気をつけて生活している。 ○メディアとのつき合い方について、子どもと話し合いをしている。	2.9					
			職員	○望ましい生活習慣の定着に向けて計画的な指導、啓発が行われている。 ○メディアとの上手なつき合い方の指導が計画的に行われている。	3.3					
④【清楚】	1)明るい挨拶の習慣化	○明るい挨拶の習慣化に向けた全校体制での取組	生徒	○明るい挨拶をするよう心がけている。	3.5	B	・生活リズムや健康については、学年が上がるにつれて、評価が低くなる傾向が見られた。 ・メディアコントロールの取組や情報モラル教室など計画的な啓発活動を実施できているが、更に意識を高める工夫が必要。	A	・学年に関係なく、元気よく挨拶をする子はするし、しない子はしないという実態。大人から挨拶するのも大切。 ・家庭でもメディアコントロールや情報モラルについて話し合ったり、意識を高めていく必要がある。 ・この項目に関する評価指標（アンケートの文面）を改善するとよい。	・生徒会企画で、挨拶に関するキャンペーンを実施。PTA活動との連携も検討。 ・メディアコントロールに関する講演会、道徳や学級活動などの実施による繰り返し。 ・保護者への情報提供と家庭での理解協力の依頼。 ・健康観察の電子入力による生徒の朝食や睡眠の状況の把握。個別の言葉かけにつなげること。
			保護者	○学校は、明るいあいさつが習慣化するよう積極的に取り組んでいる。	3.0					
			職員	○明るい挨拶の習慣化に取り組み、また、習慣化に向けて指導している。	3.3					
			生徒	○メディアコントロール週間の取組等を通して、生活リズムを整え健康に気をつけて生活している。	3.0					
⑤教育活動を支える基盤	1)人権感覚を高め、互いに認め合う支持的風土の醸成	○生徒一人ひとりを大切にしたい適切な言葉かけ	生徒	○先生は生徒を大切にしている。 ○先生は頑張れるように、言葉をかけてくれる。 ○先生は適切な指導や支援、助言などをしてくれる。	3.5	B	・生徒と保護者の捉え方に差がある項目が多い。思春期を迎え、家庭での親子の会話の減少が考えられる。生徒の成長段階を考えるとそのギャップは妥当とも考えられる。そこをふまえて職員と保護者が情報共有できるように、学校からの情報発信をより充実させる方策が必要。 ・環境整備活動やPTA研修会等への参加は多かったが、授業参観への参加は少なかった。	A	・全国的に学校部活動が地域へ移行する流れにある。教育委員会が主導して進めていくべきだが、進んでいないのが現状。 ・保護者が参加したくなるような活動（右欄の改善策の例。参観授業やPTA活動など）を企画することもよい方法だと思う。 ・開かれた学校づくりの推進の課題については、学校からの情報発信（生徒の頑張っている姿を伝える）工夫を要する。	・まちこみメール活用による文書配信の実施。学校からの案内、献立表、学年・学級通信などを電子化して、確実に保護者に届くようにすること。 ・保護者のニーズに合わせた企画をPTA活動として行ったり、新たに学校でできること（例：給食の試食会、保護者参加の授業など）を提案したりして、保護者の参画意識の向上を図ること。 ・職員の働き方改革を意図した、学校生活時程（完全下校時刻の繰り上げ等）の検討。
			保護者	○職員は、生徒一人一人を大切に言葉かけをしている。	3.0					
			職員	○生徒職員一人一人の人権を大切に教育活動や学校運営が行われている。 ○生徒を意欲づける言葉かけを意識的に行っている。 ○職員の間際性や協働性を生かした学校運営が行われている。 ○「報告・連絡・相談」を密にした組織的な学校運営が行われている。 ○教育目標や指導方針を意識して教育活動や学校運営に取り組んでいる。 ○校務分掌の企画推進等を通して、学校経営に参画している。 ○自らの教育実践を反省し、改善・更新を意識している。	3.5					
			生徒	○学校の施設は安全できれいになっており、生活しやすい環境である。 ○学校の施設は安全に管理され、美化整備されている。	3.4					
⑤教育活動を支える基盤	2)組織的な学校運営の推進	○「報告・連絡・相談」を密にした組織的・協働的な対応	保護者	○授業公開や文書などを通して、生徒の活動の様子や学校方針などを知ることができる。 ○子どものことについて、学校に相談しやすい。	2.9	B	・環境整備活動やPTA研修会等への参加は多かったが、授業参観への参加は少なかった。	A	・全国的に学校部活動が地域へ移行する流れにある。教育委員会が主導して進めていくべきだが、進んでいないのが現状。 ・保護者が参加したくなるような活動（右欄の改善策の例。参観授業やPTA活動など）を企画することもよい方法だと思う。 ・開かれた学校づくりの推進の課題については、学校からの情報発信（生徒の頑張っている姿を伝える）工夫を要する。	・まちこみメール活用による文書配信の実施。学校からの案内、献立表、学年・学級通信などを電子化して、確実に保護者に届くようにすること。 ・保護者のニーズに合わせた企画をPTA活動として行ったり、新たに学校でできること（例：給食の試食会、保護者参加の授業など）を提案したりして、保護者の参画意識の向上を図ること。 ・職員の働き方改革を意図した、学校生活時程（完全下校時刻の繰り上げ等）の検討。
			職員	○各種通信や家庭連絡、家庭訪問等の手立てや連携がとられている。 ○保護者や学校関係者等に対して、接遇を心得て、節度ある行動や態度で関わるよう努めている。 ○外部機関やSC、SSW等との連携が適切に図られている。	3.5					
			保護者	○学校運営協議会制度やPTA活動などを通して、学校の教育活動への参画場面が確保されている。	3.0					
			職員	○学校運営協議会制度やPTA活動等により、学校運営に地域や家庭の参画が図られている。	3.6					
⑤教育活動を支える基盤	3)安全で快適な環境づくりへの意識	○安全な施設管理、校舎内外の美化・整備	保護者	○校舎内外の美化・整備が行われている。 ○教材備品等が利用しやすく整備され、保守管理が適切に行われている。	3.4	B	・環境整備活動やPTA研修会等への参加は多かったが、授業参観への参加は少なかった。	A	・全国的に学校部活動が地域へ移行する流れにある。教育委員会が主導して進めていくべきだが、進んでいないのが現状。 ・保護者が参加したくなるような活動（右欄の改善策の例。参観授業やPTA活動など）を企画することもよい方法だと思う。 ・開かれた学校づくりの推進の課題については、学校からの情報発信（生徒の頑張っている姿を伝える）工夫を要する。	・まちこみメール活用による文書配信の実施。学校からの案内、献立表、学年・学級通信などを電子化して、確実に保護者に届くようにすること。 ・保護者のニーズに合わせた企画をPTA活動として行ったり、新たに学校でできること（例：給食の試食会、保護者参加の授業など）を提案したりして、保護者の参画意識の向上を図ること。 ・職員の働き方改革を意図した、学校生活時程（完全下校時刻の繰り上げ等）の検討。
			職員	○校舎内外の美化・整備が行われている。 ○教材備品等が利用しやすく整備され、保守管理が適切に行われている。	3.4					
			保護者	○校舎内外の美化・整備が行われている。 ○教材備品等が利用しやすく整備され、保守管理が適切に行われている。	3.4					
			生徒	○安全な施設管理、校舎内外の美化・整備	3.4					
⑤教育活動を支える基盤	4)開かれた学校づくりの推進	○定期的な情報発信 ○家庭・地域・関係機関等との連携、理解や協力確保への努力	保護者	○授業公開や文書などを通して、生徒の活動の様子や学校方針などを知ることができる。 ○子どものことについて、学校に相談しやすい。	2.9	B	・環境整備活動やPTA研修会等への参加は多かったが、授業参観への参加は少なかった。	A	・全国的に学校部活動が地域へ移行する流れにある。教育委員会が主導して進めていくべきだが、進んでいないのが現状。 ・保護者が参加したくなるような活動（右欄の改善策の例。参観授業やPTA活動など）を企画することもよい方法だと思う。 ・開かれた学校づくりの推進の課題については、学校からの情報発信（生徒の頑張っている姿を伝える）工夫を要する。	・まちこみメール活用による文書配信の実施。学校からの案内、献立表、学年・学級通信などを電子化して、確実に保護者に届くようにすること。 ・保護者のニーズに合わせた企画をPTA活動として行ったり、新たに学校でできること（例：給食の試食会、保護者参加の授業など）を提案したりして、保護者の参画意識の向上を図ること。 ・職員の働き方改革を意図した、学校生活時程（完全下校時刻の繰り上げ等）の検討。
			職員	○各種通信や家庭連絡、家庭訪問等の手立てや連携がとられている。 ○保護者や学校関係者等に対して、接遇を心得て、節度ある行動や態度で関わるよう努めている。 ○外部機関やSC、SSW等との連携が適切に図られている。	3.5					
			保護者	○学校運営協議会制度やPTA活動などを通して、学校の教育活動への参画場面が確保されている。	3.0					
			職員	○学校運営協議会制度やPTA活動等により、学校運営に地域や家庭の参画が図られている。	3.6					
⑤教育活動を支える基盤	5)持続可能な学校運営への着眼	○学校運営協議会導入による学校運営の基盤整理と充実	保護者	○学校運営協議会制度やPTA活動などを通して、学校の教育活動への参画場面が確保されている。	3.0	B	・環境整備活動やPTA研修会等への参加は多かったが、授業参観への参加は少なかった。	A	・全国的に学校部活動が地域へ移行する流れにある。教育委員会が主導して進めていくべきだが、進んでいないのが現状。 ・保護者が参加したくなるような活動（右欄の改善策の例。参観授業やPTA活動など）を企画することもよい方法だと思う。 ・開かれた学校づくりの推進の課題については、学校からの情報発信（生徒の頑張っている姿を伝える）工夫を要する。	・まちこみメール活用による文書配信の実施。学校からの案内、献立表、学年・学級通信などを電子化して、確実に保護者に届くようにすること。 ・保護者のニーズに合わせた企画をPTA活動として行ったり、新たに学校でできること（例：給食の試食会、保護者参加の授業など）を提案したりして、保護者の参画意識の向上を図ること。 ・職員の働き方改革を意図した、学校生活時程（完全下校時刻の繰り上げ等）の検討。
			職員	○学校運営協議会制度やPTA活動等により、学校運営に地域や家庭の参画が図られている。	3.6					

(*1)2学期末にアンケート評価を実施(回答数=生徒67、保護者53、職員18) (*2)評定平均値(4段階)、目標値は各項目3.0 (*3)自己評価結果=水準に対する達成度、自己評価=評価項目を総括したもの(A=達成、B=概ね達成、C=達成不十分) (*4)学校関係者評価結果=自己評価の妥当性(A=妥当、B=妥当でない)